

平成 21 年度事業報告

自 平成 21 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 3 月 31 日

1. 全体景況

政府発表によれば、平成 21 年度の我が国経済は、失業率が高水準で推移するなど厳しい状況にあるが、持ち直していくと見込まれる。平成 21 年度の国内総生産の実質成長率は、マイナス 2.6%程度にとどまると見込まれる。

2. 鑄造業界

- (1) 鑄造業の平成 21 年（2009 年）の生産金額（ダイカストを除く）は、1 兆 93 億円、対前年比 36.7%減と平成 20 年秋に発生した世界同時不況の影響による急激な受注減を反映して大幅な落ち込みとなった。
- (2) 代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、5,496 億円、同 39.4%減、生産量は、263 万トンと昭和 41 年当時の水準まで低下し、44 年ぶりに 300 万トンを下回る水準となった。3 月を底に回復傾向を示すが、自動車用鑄物が下期はピーク時の 60%まで回復したのに比べ、産業機械用鑄物はピーク時の 30~40%程度で推移した。
- (3) 非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）の生産金額は、銅合金鑄物が 840 億円と対前年比 35%減、アルミニウム鑄物が 2,069 億円、同 32.9%減となった。
- (4) 原材料の動向は、鉄スクラップは上期が前年後半の大幅下落以降安定的に推移したが、下期は輸出価格の上昇を反映して再び上昇傾向を示した。鑄物用銑鉄、コークスは年間を通じて下落傾向を示したが、依然として高値を維持している。
銅地金、アルミニウム地金は、下期の生産回復を反映して上昇傾向にある。

表 1. 鑄造品の生産額推移

単位：億円、%

平成(年)	銑鉄鑄物	鑄鋼	銅合金	アルミ鑄物	精密鑄造品	ダイカスト
13(2001)	6,362(88.6)	1,412(102.5)	695(99.1)	2,643(91.8)	493(104.7)	4,337(93.2)
14(2002)	6,176(97.1)	1,257(89.0)	673(96.8)	2,691(101.8)	449(91.1)	4,649(107.2)
15(2003)	6,505(105.3)	1,219(97.0)	745(110.7)	2,557(95.0)	397(88.5)	5,062(108.9)
16(2004)	7,215(110.9)	1,223(100.3)	833(111.8)	2,601(101.7)	439(110.4)	5,509(108.9)
17(2005)	7,888(109.3)	1,434(117.3)	823(98.8)	2,790(107.3)	463(105.5)	6,000(108.9)
18(2006)	8,295(105.2)	1,596(111.3)	1,147(138.5)	3,072(109.2)	472(101.9)	6,751(112.5)
19(2007)	8,701(104.9)	1,749(109.6)	1,325(114.8)	3,203(105.5)	537(113.8)	7,317(108.4)
20(2008)	9,103(104.6)	1,865(106.6)	1,291(97.5)	3,085(96.3)	600(111.7)	6,968(95.2)
21(2009)	5,496(60.4)	1,248(66.9)	840(65.0)	2,074(67.2)	435(72.2)	4,434(63.6)

注 1. 銑鉄鑄物には、鑄鉄管、可鍛鑄鉄を含む。

注 2. () は、対前年比

表 2. 鉄鋳物の生産量推移 単位：千トン、%

平成(年)	合 計	銑鉄鋳物	鋳鉄管	可鍛鋳鉄	鋳鋼
13(2001)	4,548(92.1)	3,632(90.8)	564(97.2)	93(94.9)	259(98.1)
14(2002)	4,391(96.5)	3,602(99.2)	477(84.6)	80(86.0)	232(89.6)
15(2003)	4,702(107.1)	3,803(105.6)	583(122.2)	81(101.3)	235(101.3)
16(2004)	4,890(104.0)	4,102(107.8)	453(77.7)	77(95.1)	258(109.8)
17(2005)	5,045(103.2)	4,299(104.8)	403(88.9)	66(85.7)	277(107.4)
18(2006)	5,217(103.4)	4,425(102.9)	445(110.5)	56(84.9)	291(105.1)
19(2007)	5,259(100.8)	4,484(101.3)	416(94.1)	54(94.7)	304(104.5)
20(2008)	5,108(97.1)	4,315(96.2)	434(104.3)	48(88.9)	310(102.0)
21(2009)	3,272(63.8)	2,621(60.7)	405(93.2)	39(81.1)	207(66.8)

※注 () は、対前年比

II. 協会活動の概要

本年度は、鋳造産業ビジョン第1期（平成19～21年度）の最終年度として、また平成20年秋に発生した世界不況を反映した鋳物需要の急減を反映して上期に平均操業率50%を下回るというかつてない低操業に対応するために、会員企業の存続を図るための事業活動を最優先に実施した。主な事業概要は次の通り。

1. 7月1日に、社団法人日本非鉄金属鋳物協会との統合を実施した。併せて、同日付の日刊工業新聞に統合に関する広告を掲載した。
2. 鋳造産業ビジョン推進特別部会は、昨年11月から本年2月までの4ヶ月間に渡る審議を行い、第1期計画におけるアクションプランの実施状況についての総括を行い、現下の政治・経済状況を踏まえ、併せて6部会との意見調整もを行い、鋳造産業ビジョン第2期計画案(2010～2012年度)を作成した。
3. 第2期計画案は、①事業継続と健全な経営、②技術開発による商品開発力の向上、③人材育成の充実、④グローバル化、⑤環境・エネルギー対応の5分野を重点課題とした。
4. 急激な需要減への対応として、政府による資金繰り施策や雇用維持施策に関する説明会の開催やこれらの施策情報を、メールを活用して迅速に会員に提供した。8月には雇用調整助成金制度の再申請要件緩和に関する要望を厚生労働省、経済産業省に行い、これを実現するなど会員企業の資金繰りや雇用確保等を支援した。
5. 低操業に伴う電力料金コスト増問題に対応するために、5月に電力料金制度説明会の開催、7月から8月にかけて電力料金要請文を作成し、地区代表による電力会社訪問等により電力料金契約変更の柔軟な対応を要請した。
6. 下期以降の需要動向に関して9月25日自動車工業会等の主要業界団体担当者による主要需要動向説明会を開催し、また、電気自動車量産元年といわれる中で、今後の電気自動車の普及見通しに関する講演会を1月の新年賀詞交歓会に併せて開催した。
7. 4月に、当協会が新たに作成した鋳造商品基本取引契約書を広く会員に配布・周知して取引への活用を要請した。また、適正取引ガイドラインについては、前年同様に全国各地で開催されたガイドラインや下請法に関するセミナーへの会員企業の参加を広く周知した。
8. 政府の再生可能エネルギー全量買取制度導入検討に関して、12月23日にエネルギー多消費産業である鋳造業から見た問題点を政府の委員会にて意見表明した。

9. 税制については、①中小企業者等が機械等を取得した場合の特別償却又は法人税額の特別控除、②エネルギー需要構造改革投資促進税制についての期間延長を経済産業省に要望した。
10. 技術開発では、8月に平成21年度の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン委託）を2件受託し、これまでの受託事業と併せて6件の研究開発を推進し、うち3件が終了した。また、不況対策として政府が実施したものづくり中小企業の試作品等開発（いわゆる2/3補助金）事業に関する会員の応募支援を行い、会員企業による93件の採択実績となった。
11. 将来の鋳物工場の経営者や工場長の育成を目指した鋳造カレッジは、6月より関東、中部、近畿の3地区で開設し、合計63名が受講し、62名が修了した。当協会認定の鋳造技士は、これまでの3年間で累計201名を認定するにいたった。
12. 厚生労働省のジョブ・カード制度普及のためのモデル事業として、新人教育のための社内・社外教育から構成する新人研修プログラム（実践型人材養成システム）を作成し、平成22年4月から6ヶ月間実施するための受講生の募集を行った。
13. 春季大会は、経済状況を反映して中止とし、秋季大会を10月17日、長崎市にて日本鋳造工学会との合同開催により講演会、懇親会を開催した。2月に若手経営者全国大会を名古屋で開催した。
14. 9月に隔年で開催している第6回JFS国際精密鋳造セミナーを東京学士会館にて開催（136名参加）、9月に上海で開催されたアジア鋳造フォーラム準備会議への参加、10月にインディアナポリスで開催された米国精密鋳造会議に参加、2月末にドイツ新鋭工場視察団（25名）を派遣し、併せてドイツ鋳造協会（BDG）との定期協議を行った。また、平成22年5月に北京で開催するメタルチェーンに当協会として初めの出展準備を行った。
15. 前年に続いて平成22年1月に政府による「雇用創出企業1,400社（企業概要集）」の第2弾に当協会会員企業66社が掲載された。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会、臨時総会、理事会5回、正副会長会5回、監事会1回それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

また、今年度新たに顧問会議、参与会議を開催した。日非協との統合を推進するために統合準備委員会及び臨時総会を開催した。

(1) 総会

1) 通常総会

平成21年5月21日（木）、機械振興会館に於いて第5回通常総会を開催し、平成20年度事業報告・同収支決算、21年度事業計画・同収支予算、理事選任について審議・承認した。

(2) 理事会

第21回から第25回までの合計5回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- 1) 第21回：平成21年 5月21日（木）機械振興会館
- 2) 第22回：平成21年 7月15日（水）機械振興会館
- 3) 第23回：平成21年11月12日（木）機械振興会館
- 4) 第24回：平成22年 1月19日（火）東京プリンスホテル
- 5) 第25回：平成22年 3月18日（木）機械振興会館

(3) 正副会長会

第 23 回から第 27 回までの合計 5 回開催し、重要案件について審議した。

- 1) 第 23 回：平成 21 年 4 月 20 日（月）機械振興会館
- 2) 第 24 回：平成 21 年 7 月 1 日（水）機械振興会館
- 3) 第 25 回：平成 21 年 10 月 7 日（水）機械振興会館
- 4) 第 26 回：平成 21 年 12 月 10 日（木）機械振興会館
- 5) 第 27 回：平成 22 年 2 月 17 日（水）機械振興会館

(4) 監事会

平成 20 年 4 月 17 日（金）機械振興会館に於いて監事会を開催し、平成 20 年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行なった。

(5) 参与会議

- 1) 第 3 回：平成 21 年 8 月 6 日（水）機械振興会館

(6) 役員選考委員会及びWG

- 1) 第 1 回：平成 21 年 12 月 2 日（水）機械振興会館
- 2) W G：平成 22 年 2 月 2 日（火）機械振興会館
- 3) 第 2 回：平成 22 年 2 月 12 日（金）機械振興会館

2. 部会に関する事項

(1) 鑄造産業ビジョン推進特別部会

- 1) 2006 年（平成 18 年）11 月に鑄造産業ビジョン（以下、ビジョンという）を作成し、鑄造産業の 10 年後のあるべき姿「鑄造産業の技術・技能の革新、健全な取引慣行等により収益性の確保できる企業体質・業界となり、真のユーザーに対するベストパートナーになること」の実現を目指して、2007~2009 年度の 3 年間の第 1 期計画として毎年アクションプランとして具体的に取り組むべき実施項目の作成と見直しを行いつつ取り組んできた。

2010~2012 年度の 3 年間の第 2 期計画を作成するために、鑄造産業ビジョン推進特別部会は、昨年 11 月から本年 2 月までの 4 ヶ月間にわたり審議を行ってきた。

この間、第 1 期計画におけるアクションプランの実施状況についての総括を行い、現下の政治・経済状況を踏まえて、併せて 6 部会との意見調整も行い、ビジョンの第 2 期計画案を作成した。

2) 部会の活動

- 第 1 回 平成 21 年 11 月 4 日（水）機械振興会館
- 第 2 回 平成 21 年 12 月 19 日（土）安保ホール
- W G 平成 22 年 1 月 21 日（木）機械振興会館
- 第 3 回 平成 22 年 2 月 11 日（木）機械振興会館

(2) 総務部会

- 1) 総務部会を 3 回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営（他の部会に属するものを除く）に関する事項について審議した。

- 第 13 回 平成 21 年 6 月 19 日（金）機械振興会館
- 第 14 回 平成 21 年 10 月 27 日（火）機械振興会館
- 第 15 回 平成 22 年 3 月 11 日（木）機械振興会館

- 2) 総務委員会を総務部会と合同開催し、平成 21 年度収支決算見込み等について審議した。

(3) 経営部会

経営部会を4回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

第15回 平成21年 6月25日(木) 高輪和彊館

第16回 平成21年 9月11日(金) 高輪和彊館

第17回 平成21年12月 7日(月) 機械振興会館

第18回 平成22年 2月 4日(木) 機械振興会館

(4) 技術部会

技術部会を技術開発委員会と合同で3回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討およびサポイン新規案件の抽出、委員会運営等に関する事項について審議を行った。

第1回 平成21年 6月2日(火) 機械振興会館

第2回 平成21年10月6日(火) 機械振興会館

第3回 平成22年 2月3日(水) 機械振興会館

(5) 非鉄部会

非鉄部会を1回開催し、統合後の非鉄部会の運営方針、鑄造カレッジ非鉄コースの新設ならびに委員会活動に関する事項について審議を行った。

第1回 平成21年 7月 2日(木) 機械振興会館

第2回 平成21年12月11日(金) 機械振興会館

第3回 平成22年 1月20日(水) 機械振興会館

(6) 国際部会

国際部会を3回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。また、鑄造関係の国際会議やセミナー参加に対する実行企画立案、海外鑄造団体との関係強化、海外視察団の派遣等を推進した。

第1回 平成21年6月6日(水) ナンヨー株式会社

第2回 平成21年8月19日(水) 機械振興会館

第3回 平成22年2月9日(火) 機械振興会館

(7) 中小企業部会

中小企業部会を3回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を行った。

第16回 平成21年 6月 4日(木) 高輪和彊館

第17回 平成21年12月18日(木) 名古屋通信会館

第18回 平成22年 2月10日(水) 機械振興会館

IV. 社団法人日本非鉄金属鑄物協会との統合に関する事項

1. 定款変更に関する事項

- (1) 社団法人日本非鉄金属鑄物協会(以下、日非協という)との統合に伴い、事業内容及び協会理事定数を55~60名とする定款変更を行った。(平成21年5月13日付大臣認可)

2. 統合に関する事項

- (1) 第21回理事会で法人正会員35社、団体正会員6組合(傘下企業39社)、賛助会員3社の日非協会員の移籍を承認した。

- (2) 役員選考委員会（総務委員会が兼務）は、非鉄金属鋳物業の増員 5 名を含む 7 名の協会役員候補推薦を行い、第 21 回理事会及び第 5 回総会で承認された。
- (3) 平成 21 年 7 月 1 日付けで当協会と日非協とが統合した。統合を記念して 7 月 1 日付け日刊工業新聞に統合に関する特集をくみ、日非協との統合広告（22 面、7 段）を掲載し、主な会員企業も協賛広告を掲載した。
- (4) 統合に伴い、日非協の解散に伴う残余財産の寄付があり、諸経費を除いた 14,000 千円を非鉄金属鋳物振興特別会計とした。

V. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) 鋳物業取引改善説明会の開催

需要業界の動向説明会を 1 回開催した。

1) 「需要業界動向説明会・情報交換会」

需要業界の動向についての説明会ならびに自動車メーカーの世界市場環境についての講演。平成 21 年 9 月 25 日（金） 機械振興会館 参加人数 170 名

(2) 秋季講演会の開催

平成 21 年 10 月 17 日長崎市にて秋季講演会を開催した。参加人数は、100 名であった。

1) 講演会 平成 21 年 10 月 17 日（土）長崎大学

演 題	講演者	所 属
1. サポイン第 1 期終了プロジェクトの成果紹介		
1) 環境対応型非鉄金属鋳造技術開発	岡根 利光	(独) 産業技術総合研究所
2) 過熱蒸気による鋳型造型プロセスの開発	前田 貞夫	(株) 前田シェルサービス 代表取締役会長
3) 環境調和型高機能・高性能鋳造品の製造技術開発	平塚 貞人	岩手大学 教授
4) 鋳物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的パワーアシスト装置の開発	寺嶋 一彦	豊橋技術科学大学 教授
2. 鋳物関連最新技術紹介		
1) 鋳鉄工場へのアルミナ系人工砂の導入	市野 育男	(株) 木村鋳造所 本社工場 工場長
2) 革新的シェル中子造型法によるダイカスト法への展開	山元 孝志	旭有機材工業 (株) 樹脂事業部
3. 協会事業の活動成果紹介		
1) 生型鋳型による球状黒鉛鋳鉄の押し湯をどこまで減らせるか？そのシミュレーションはここまできた	山田 聡	(株) アイメタルテクノロジー 研究開発部長
2) 鋳造業界の CO2 排出実態調査	重野 勝利	(株) マツバラ
3) 廃棄物リサイクルに関する課題と対応	服部 敏裕	アイシン高丘 (株) 安全環境部
4) 人材育成への取組み ～鋳造カレッジ 3 年間のあゆみ～	角田 悦啓	(社) 日本鋳造協会 専務理事

(3) 新年賀詞交歓会 平成 22 年 1 月 19 日 (火)

会員の情報交換及び懇親を目的に、「新年賀詞交歓会」を東京プリンスホテル (港区) に於いて開催した。賀詞交歓会には、行政、学会、関係団体からの招待を含めて 266 名の参加があった。賀詞交歓会に先立って、電気自動車の量産化に関する講演会を開催した。

講師：シーエスエム・ワールドワイド・ジャパン

アジア・パワートレイン・フォーキャスト

シニア・マネージャー 石井 敦氏

演題：「今後のパワートレインの変化と鋳物への影響

ー電気自動車の動向と既存エンジン・トランスミッションの改良ー」

(4) 平成 21 年度若手経営者全国大会の開催 平成 22 年 2 月 18～19 日

平成 22 年 2 月 18～19 日中部地区において若手経営者全国大会を開催し、講演会、情報交換会、工場見学会を実施した。

1) 講演会 平成 22 年 2 月 18 日 (木) 愛知県産業労働センター、参加人数 72 名

演 題	講演者	所 属
「ものづくり政策」	金子 敬一	経済産業省 素形材産業室 課長補佐
「クリーンファクトリーを目指して」	松原 光好	(株)マツバラ 代表取締役会長
「こだわりの経営」	丹羽 龍	丹羽鋳造(株) 代表取締役社長

2) 工場見学会 平成 21 年 2 月 19 日(金)

(株)マツバラ 関工場、丹羽鋳造(株) 関工場を見学。参加人数 47 名

(5) リスクアセスメント推進研修会

労働災害の減少を図るため、安全管理手法としてリスクアセスメント (機械等や作業の危険・有害性の事前評価) を推進する研修会を他 2 団体 (日本鋳鍛鋼会・(社)日本ダイカスト協会) 合同で開催した。

平成 22 年 3 月 25 日 (木) 10 : 30～16 : 30

愛知県産業労働センター 13 階 1302 号室 参加者 26 名

(6) 鋳造技術研修会

鋳造の基礎技術を、現場作業者を対象に 4 回開催した。

第 1 回 平成 21 年 6 月 8 日 (月) 東京 参加者 37 名

第 2 回 平成 21 年 9 月 28 日 (月) 広島市 参加者 55 名

第 3 回 平成 21 年 11 月 27 日 (金) 金沢市 参加者 52 名

第 4 回 平成 22 年 2 月 9 日 (火) 静岡市 参加者 38 名

2. 急激な需要減への対応に関する事項

(1) セーフティネット保証による貸付,セーフティネット貸付説明会の実施

資金繰り改善や支払健全化等のためセーフティネット保証による貸付,セーフティネット貸付について 09 年 6 月に(株)日本政策金融公庫、7 月に(株)商工組合中央金庫担当者による説明会を実施し、また同制度をメールを活用して迅速に情報提供したことにより多くの会員に活用された。

(2) 雇用調整助成金制度申請要件等緩和措置の要望

雇用調整助成金制度再申請要件緩和について 09 年 8 月厚労省に要望、9 月実態調査を

実施し、厚労省に提出・再度要望し、緩和措置が講じられたことにより、制度が利用しやすくなり、多くの会員により活用されるようになった。

(3) 電力料金説明会・協会名電力料金要請文等による電力会社の柔軟な対応要望

電力料金問題は、09年5月電力料金説明会、7月協会名電力料金要請文の作成・送付、8月地区代表による電力会社訪問等により、電力会社の柔軟な対応や電力料金の契約変更などに役立ち、中小・大手会員協力による電力会社訪問となり協会としてのまとまりができた。また、日刊工業新聞に業界の取組み記事の掲載されたことにより協会の取り組みのPRに役立った。

(4) 自動車等の需要業界説明会・情報交換会の開催

自動車・工作機械・建設機械業界の説明並びに自動車メーカーの世界市場状況についての09年9月説明会、情報交換会を実施し会員の情報提供に努めた。

3. 鋳造業の経営改善・振興対策に関する事項

(1) 若手経営者委員会による普及活動

原価計算モデル普及のための原価モデルソフト購入者を対象とした研修会を1回開催した。

第1回 平成21年10月13日(火) 川口鋳物工業協同組合 参加者 11名

(2) 量産鋳鉄鋳物委員会の活動

量産鋳鉄鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第5回 平成21年 6月19日(金) 高輪和彊館 参加者 24名

第6回 平成21年 9月17日(木)～18日(金) 名古屋 参加者 24名

第7回 平成21年12月10日(木) 高輪和彊館 参加者 20名

第8回 平成22年 3月11日(木)～12日(金) 大阪 参加者 26名

(3) 非量産鋳鉄鋳物委員会の活動

非量産鋳鉄鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第4回 平成21年 6月19日(金) 高輪和彊館 参加者 18名

第5回 平成21年11月20日(金) 高輪和彊館 参加者 18名

第6回 平成22年 2月 5日(金) 名古屋 参加者 21名

(4) 精密鋳造経営委員会の活動

精密鋳造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第16回 平成21年 6月12日(金) 機械振興会館 参加者 8名

第17回 平成21年 9月17日(木) 機械振興会館 参加者 11名

第18回 平成21年12月 3日(木) 機械振興会館 参加者 10名

第19回 平成22年 3月 5日(金) 機械振興会館 参加者 11名

(5) 鋳鋼鋳物委員会の活動

鋳鋼鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第3回 平成21年 6月26日(金) 大阪 参加者 20名

第4回 平成21年 9月18日(金) 高輪和彊館 参加者 14名

第5回 平成22年 3月 2日(火) 富山 参加者 21名

4. 調査研究に関する事項

(1) 市場調査委員会の活動

第12回 平成21年 6月25日(木) 高輪和彊館 参加者4名

第13回 平成21年12月 7日(月) 機械振興会館 参加者6名

(2) 調査項目

①製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の統計調査

②原材料、副資材価格動向調査

③景況調査

④倒産、転業、廃業、休業調査

⑤需要予測調査

⑥模型の廃棄・保管に関する調査

⑦景況悪化に伴う生産動向、雇用状況、資金繰り状況の調査

5. 鑄造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

(1) 経済産業省経済産業政策局行動課へ税制要望

1) 中小企業者等が機械等を取得した場合の特別償却又は法人税額の特別控除(中小企業投資促進税制)

平成21年度末で適用期限が到来する中小企業投資促進税制の期間延長を要望する。

2) エネルギー需要構造改革投資促進税制(エネ革税制)

平成21年度末で適用期限が到来するエネルギー需要構造改革投資促進税制の期間延長を要望する。

6. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会の活動

1) 第6回 平成21年 6月 4日(木) 高輪和彊館

2) 第7回 平成21年 9月25日(金) 機械振興会館

3) 第8回 平成21年12月18日(金) 名古屋

4) 第9回 平成22年 2月10日(水) 機械振興会館

(2) 組合事務局長会の活動

1) 第9回 平成21年 6月 4日(木) 高輪和彊館(代表者会合同)

2) 第10回 平成21年 9月25日(金) 機械振興会館(代表者会合同)

3) 第11回 平成21年11月27日(金)~28日(土) 三重

4) 第12回 平成22年 2月10日(水) 機械振興会館(代表者会合同)

(3) 若手経営者委員会の活動

若手後継者委員会を若手経営者委員会に変更して3回開催した。

1) 第16回 平成21年 7月31日(金) 機械振興会館

2) 第17回 平成21年12月14日(月) 高輪和彊館

3) 第18回 平成22年 3月5日(金)~6日(土) 熊本

7. 技術開発に関する事項

(1) 技術開発委員会(技術部会と合同開催)

1) 第1回部会 平成21年 6月2日(火) 機械振興会館

- 2) 第2回部会 平成21年10月6日(火) 機械振興会館
- 3) 第3回部会 平成22年 2月3日(水) 機械振興会館
- (2) 鋳型技術委員会(委員長 橋本邦弘 テーマ:革新的鋳型造型技術の探求)
 - 1) 第1回 平成21年6月26日(金) 機械振興会館 参加22名
 - 2) 第2回 平成21年9月18日(金) 機械振興会館 参加21名
 - 3) 第3回 平成21年12月18日(金) 機械振興会館 参加22名
 - 4) 第4回 平成21年3月19日(金) 機械振興会館 参加 名
- (3) 球状黒鉛鋳鉄の歩留り向上研究委員会(委員長 山田 聡 テーマ:歩留まりの極限化)
 - 1) 第1回 平成21年6月17日(水) 機械振興会館 参加14名
 - 2) 第2回 平成21年9月16日(水) アイシン高丘本社工場 参加16名
 - 3) 第3回 平成21年12月16日(水) 機械振興会館 参加13名
 - 4) 第4回 平成22年3月17日(水)) (株)真岡製作所 参加 名
- (4) キュボラ操業研究委員会(委員長 佐藤兼弘 テーマ:バイオコークスと廃棄物の削減)
 - 1) 第1回 平成21年4月17日(金) 機械振興会館 参加11名
 - 2) 第2回 平成21年7月17日(金) 機械振興会館 参加11名
 - 3) 第3回 平成21年11月13日(金) 機械振興会館 参加12名
 - 4) 第4回 平成22年3月 日(金) 機械振興会館 参加 名
- (5) 電気炉操業研究委員会(委員長 菅野利猛 テーマ:高品質な鋳鉄鋳物を製造するための材質の作り方と考え方)
 - 1) 第1回 平成21年5月19日(火) 機械振興会館 参加29名
 - 2) 第2回 平成21年8月18日(火) 機械振興会館 参加29名
 - 3) 第3回 平成22年2月10日(水) 機械振興会館 参加27名
- (6) 精密鋳造技術委員会(委員長 那須征雄 テーマ:精密鋳造用ワックスの規格化)
(社)日本鋳造工学会精密鋳造部会との共同開催
 - 1) 第1回 平成21年5月22日(金) ニュー新橋ビル 参加18名
 - 2) 第2回 平成21年8月21日(金) ニュー新橋ビル 参加20名
 - 3) 第3回 平成21年11月20日(金) ニュー新橋ビル 参加22名
 - 4) 第4回 平成22年2月19日(金) ニュー新橋ビル 参加21名
- (7) 軽合金委員会(委員長 田島 正明 新設)
 - 1) 第1回 平成21年 7月10日(金) 川口キャスティ 参加者26名
 - 2) 第2回 平成21年10月 2日(金) 川口総合文化センター 参加者25名
 - 3) 第3回 平成22年 2月 5日(金) (株)明石合銅(金沢) 見学会 参加25名
- (8) 銅合金技術委員会(委員長 神尾 彰彦 新設)
 - 1) 第1回 平成21年 7月 8日(水) 機械振興会館 参加者40名
 - 2) 第2回 平成21年10月17日(土) 長崎大学 参加者26名
 - 3) 第3回 平成22年 3月 5日(金) 機械振興会館 参加者30名
 - a) 銅合金分科会(リーダー 小館 貞治)
 - 1) 第1回 平成21年11月19日(木) 機械振興会館 参加者18名
 - 2) 第2回 平成22年 3月 5日(金) 機械振興会館 参加者13名
 - b) 銅合金分科会(リーダー 山下 庄平)
 - 1) 第1回 平成21年12月21日(月) 機械振興会館 参加者13名

(9) 戦略的基盤技術高度化支援事業の実施

戦略的基盤技術高度化支援事業として、平成 21 年度に採択された 2 件を加え、7 件の研究開発を戦略的基盤技術開発室が事務局として、以下の通り実施した。

1) 鋳鉄溶湯の不純物除去と無害化技術の開発

契約期間：平成 20 年 12 月 8 日～平成 21 年 11 月 30 日（3 年目）

委託金額：60,722,796 円

2) 精密鋳造品高度化に向けた造型技術の開発

契約期間：平成 20 年 12 月 8 日～平成 21 年 11 月 30 日(3 年目)

委託金額：57,033,182 円

3) 真球人工砂を用いた高流動低温造型プロセスの開発

契約期間：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日（3 年目）

委託金額：24,359,465 円

4) アルミ基複合材鋳物のハイブリッド砂型低圧鋳造法の開発

契約期間：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日（2 年目）

委託金額：28,494,708 円

5) 高灰分コークス使用時における高生産性操業技術の開発

契約期間：平成 21 年 8 月 31 日～平成 22 年 3 月 31 日（1 年目）

委託金額：40,245,229 円

6) ラピッドプロトタイプングによる精密鋳造用鋳型及び中子の迅速造型技術の開発

契約期間：平成 21 年 9 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日（1 年目）

委託金額：43,771,825 円

7) 鋳物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的なパワーアシスト装置の開発補完研究

契約期間：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日（以後更新予定）

8) 環境対応型非鉄金属鋳造技術に関する研究開発補完研究(旧日非協受託分)

契約期間：平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日（以後更新予定）

(10) 補正予算によるものづくり中小企業の試作品等開発への支援

補正予算によるものづくり中小企業の試作品等開発（いわゆる 2/3 補助金）への応募支援活動を行い応募数 12,224 件 採択 2,280 件のうち、鋳造関係で 93 件採択された。

8. 指導・教育・人材育成に関する事項

(1) 鋳造カレッジ企画運営委員会の活動

1) 第 5 回 平成 21 年 5 月 14 日（木）機械振興会館

(2) 鋳造カレッジ企画運営委員会と日本鋳造工学会人材育成委員会との合同委員会の活動

1) 第 9 回 平成 21 年 5 月 14 日（木）機械振興会館

2) 第 10 回 平成 21 年 11 月 11 日（水）機械振興会館

3) 第 11 回 平成 22 年 2 月 23 日（火）東京プリンスホテル

(3) 鋳造カレッジ非鉄コース検討委員会の活動

1) 第 1 回 平成 21 年 8 月 6 日（木）機械振興会館

2) 鋳造カレッジ非鉄コースカリキュラムWG

第 1 回 平成 21 年 10 月 1 日（木） 機械振興会館

第 2 回 平成 21 年 10 月 29 日（木） 機械振興会館

第3回 平成21年12月25日(木) 川口インターンシップ会場見学会

(4) 鑄造カレッジ現地責任者会議の活動

- 1) 第7回 平成21年12月3日(木) 機械振興会館

(5) 鑄造カレッジの開催・実施

- 1) 平成21年5月鑄造技士認定授与式を開催し、59名の鑄造技士を認定した。
2) 関東、中部、近畿の3地区において日本鑄造工学会との連携の下に鑄造カレッジを開催し、座学・インターンシップを実施して受講生62名全員が修了した。

(6) 厚生労働省より委託を受け、ジョブ・カード制度普及のためのモデル事業を実施し、新人教育のための社内・社外教育カリキュラム、社内教育(実習)の評価表の作成等を行った。この成果を基に、教育機関6ヶ月間の新人教育研修プログラムを平成22年4月から9月まで実施することとし、1月に参加者の募集を行い29名応募があった。

1) 新人研修プログラム委員会

- 第1回 平成21年 7月30日(木) 機械振興会館
第2回 平成21年10月 1日(木) 機械振興会館
第3回 平成21年10月26日(月) 機械振興会館
第4回 平成21年12月 9日(水) 機械振興会館
第5回 平成22年 2月26日(金) 機械振興会館

2) 新人研修プログラム委員会WG

- 第1回 平成21年 6月23日(火) 機械振興会館
第2回 平成21年 6月27日(土) 川口鑄物工業協同組合
第3回 平成21年 7月25日(土) 川口鑄物工業協同組合
第4回 平成21年 9月 1日(火) 機械振興会館
第5回 平成21年10月23日(金) 機械振興会館
第6回 平成21年11月19日(木) 機械振興会館
第7回 平成22年 2月10日(水) 機械振興会館

(7) 技術普及委員会の活動

鑄造技術研修会の講義内容の調整、Q&Aの回答案作成を行った。
鑄造ジャーナル掲載のQ&Aの原稿作成を行った。

- 1) 第1回 平成21年5月18日(月) 機械振興会館
2) 第2回 平成21年6月 1日(月) 機械振興会館
3) 第3回 平成21年8月17日(月) 機械振興会館
4) 第4回 平成21年9月14日(月) 機械振興会館
5) 第5回 平成21年11月13日(金) 機械振興会館
6) 第6回 平成21年11月20日(金) 機械振興会館
7) 第7回 平成21年1月18日(月) 機械振興会館
8) 第8回 平成21年1月25日(月) 機械振興会館

9. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会の活動(委員長 大澤 伸行 ISOおよびJISに関する審議)

- 1) 第1回 平成21年6月10日(水) 機械振興会館 参加6名
2) 第2回 平成21年8月25日(火) 機械振興会館 参加9名
第1回 ISO/TC25 国内審議委員会と合同開催

- 3) 第3回 平成21年12月4日(金) 機械振興会館 参加9名
第2回 ISO/TC25 国内審議委員会と合同開催
- 4) 第4回 平成22年1月18日(月) 機械振興会館 参加8名
- (2) JIS G5510「オーステナイト鋳鉄品」改正原案作成委員会の活動
 - 1) 第1回 平成21年8月28日(金) 機械振興会館 参加11名
 - 2) 第2回 平成21年10月29日(木) 機械振興会館 参加8名
 - 3) 第3回 平成21年12月3日(木) 機械振興会館 参加10名
- (3) ISO/TC25 国内審議委員会の活動(委員長 清水 一道 ISO/TC25の規格改定等に関する審議)
 - 1) 第1回 平成21年8月25日(火) 機械振興会館 参加14名
 - 2) 第2回 平成21年12月4日(金) 機械振興会館 参加12名

10. 知的財産権の保護及び推進に関する事項

鑄造技術に関する特許情報の収集に努め、鑄造ジャーナルに科学技術文献速報、特許情報を毎月掲載した。

11. 労働安全衛生及び環境保全対策に関する事項

- (1) 環境安全対策委員会の活動(委員長 丸山 実 CO₂簡易算出式の作成、廃棄物調査)
 - 1) 第1回 平成21年5月26日(火) 機械振興会館 参加6名
 - 2) 第2回 平成21年7月28日(火) アイシン高丘本社工場 参加8名
 - 3) 第3回 平成21年9月15日(火) アイシン高丘本社工場 参加9名
 - 4) 第4回 平成21年2月4日(木) 機械振興会館 参加9名
- (2) 鑄造業における安全衛生対策の推進
 - 1) リスクアセスメントの普及活動(3団体合同で研修を実施)

12. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

- (1) 広報事業
 - 1) 編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を毎月、12回発行した。
 - 2) ホームページに原材料・副資材の価格動向を追加、各種情報の提供、会員データベースによる会員のPR等情報発信強化を図った。またEメールを活用した双方向の情報流通の手段として、会員のメールアドレスの整備を行った。
 - 3) 新聞・雑誌等に業界PR記事の提供
報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力。
 - 4) 需要業界における各種調査研究資料の提供
 - 5) 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供
 - 6) その他、業界発展のための広報・情報活動
- (2) 普及啓蒙事業
 - 1) 経営、技術および海外情報に関する相談業務
 - 2) 新技術開発・新製品開発に関する紹介
 - 3) 小中高生の鑄物工場見学受け入れ、鑄物教室開催等
- (3) 情報の提供
 - 1) 法律、制度並びに経営、技術、労働に関する情報の提供

- 2) 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
- 3) 内外の関係情報の提供

13. 国際交流に関する事項

(1) アジア鋳造フォーラム準備委員会

9/1（木）上海にて日本、中国、インド、台湾、香港およびモンゴルの各鋳造業界団体によるアジア鋳造フォーラム準備会議が開催され、日本からは中谷会長が出席した。

(2) ドイツ新鋭鋳造工場視察団

2/28～3/7に Heger Ferrit などドイツの6工場の工場視察団を派遣した。参加者28名（事務局2名、通訳1名を含む）。併せて、3/5にドイツ鋳造協会（BDG）との定期協議をマインツ市にて行った。

(3) JFS 国際精密鋳造セミナーの開催

9/8（火）～10日（木）に東京学士会館にて第6回となる国際精密鋳造セミナーを開催した。

参加者136名（うち海外47名）。発表18件（うち海外11件）。

工場見学会 2工場計52名参加

(4) 米国精密鋳造会議（ICI）に参加

10/11～10/14に米国インディアナポリスで開催された第56回ICI大会に参加し、技術情報を収集するとともに、2016年世界精密鋳造大会招請への活動を行った。

(5) 経済産業省素形材産業室が企画した素形材産業のアジアにおける海外交流促進のための海外ミッション派遣事業に会員企業が参加した

1) ベトナムミッションへ2社

2) インドネシヤミッションへ2社

14. 表彰に関する事項

(1) 協会賞の募集・選考・表彰

日本鋳造協会の協会賞として、12月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞の募集、3月に選考を行った。また、平成20年度に決定した受賞者の表彰式を5月の総会後に開催した。

(2) 功労賞

1) 経営改善賞

①木村智昭氏（㈱木村鋳造所専務取締役）

(3) 技術賞

①佐藤康人氏（㈱アイメタルテクノロジー）

②安藤 正氏 他1名（㈱アイメタルテクノロジー）

③大加戸俊雄氏（虹技㈱）

(4) 小林英三賞

①桑原亮一氏（桑原鋳工㈱代表取締役会長）

②平石正治氏（有乾特殊鋳造所代表取締役社長）

③中田正雄氏（愛媛シェル㈱代表取締役社長）

④武山喜久雄氏（武山鋳造㈱代表取締役会長）

(5) 滝沢賞

①永瀬 勇氏（㈱永瀬留十郎工場専務取締役）

15. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書、文献、視聴覚教育資料の斡旋
- (2) 工場視察、見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物の表彰状、感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

16. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

- (1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

VI. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 中部支部活動

- (1) 支部総会を6月11日に開催（出席83名）、役員会を6月、11月、3月の3回開催、本部活動報告を役員会に併せて3回実施、講演会は総会時の講演会1回（参加者83名）、工学会への協賛講演会を4回実施。
- (2) 総会時の工場見学会（参加者79名）、地区外工場見学会は、平成21年9月11日（木）に、滋賀地区の工場見学（参加者70名）、工学会協賛の見学会を静岡地区（参加者98名）で実施。工学会協賛の講習会を2回開催

2. その他の地域活動

- (1) 関東地区
 - 1) 8月5日（水） 中越鋳物工業協同組合納涼祭において中谷会長による講演を実施。
 - 2) 8月11日（火）第3回川口鋳物工業協同組合主催の「川口鋳物の日」式典に出席
 - 3) 11月16日（月）埼玉県主催の埼玉県鋳造技術コンクールの表彰式に協会賞を贈呈
- (2) 東海北陸地区
 - 1) 4月9日（木） 東海北陸鋳物工業会の例会にて、中谷会長、酒井副会長による講演を実施。
- (3) 近畿地区
 - 1) 10月24日（土） 大阪鋳鉄工業組合40周年記念式典に出席

3. 支部発足準備委員会

平成21年7月に第2回目の会合を行い、本部情報の円滑な伝達等協会活動の地方展開の活性化を図るための地方組織体制等についての検討を行った。

VII. 関係官庁への協力に関する事項

- (1) 産学人材育成パートナーシップ「機械分科会」

経済産業省の産学による人材育成課題と解決方法を探る産学人材育成パートナーシップ「機械分科会」に本会の木村副会長が委員として参加、協力した。
- (2) 素形材ビジョン検討会
経済産業省による素形材産業ビジョンフォローアップとしての素形材ビジョン検討会に本会の酒井副会長が委員として参加、協力した。
- (3) 素形材産業ビジョンフォローアップ委員会
同じく素形材産業ビジョンフォローアップとしての業種別ビジョンのフォローアップを行う標記委員会に、本会の中谷会長、酒井副会長が出席して鋳造産業ビジョンアクション

ンプラン 2008 の進捗状況を説明した。

(4) 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対し、職種「鋳造（鋳鉄鋳物鋳造作業）」に 7 名の委員を推薦した。

(5) 「雇用創出企業 1,400 社」第 2 弾への協力

前年度に続いて、経済産業省等が 1 月に作成したものづくりやサービス業、農業等の分野において、採用意欲があり、かつ人材育成に優れた企業を掲載した「雇用創出企業 1,400 社」（企業概要集）第 2 弾に当協会会員企業 66 社が掲載された。

VIII. 関係団体との交流に関する事項

(1) 需要業界団体との交流

1) 平成 21 年 4 月 8 日（水）自動車会館会議室にて、社団法人日本自動車工業会と関連団体との懇談会を開催した。本会からは中谷会長が出席した。

2) 平成 21 年 6 月 3 日（水）自動車会館会議室にて、社団法人自動車部品工業会と関連団体との懇談会を開催した。本会からは中谷会長が出席した。

(2) 素形材関連団体連絡会・鋳団連

1) (財) 素形材センターが主催する素形材産業懇談会に当協会の中谷会長が出席し、経済産業省幹部と素形材業界幹部との意見交換を行った。

2) 経済産業省と素形材関係団体間の連絡の円滑化、情報交換を目的とした「素形材関係団体連絡会」に角田専務理事が毎回出席した。

3) 鋳団連総会に出席した。

(3) 鋳物関連団体への協力

1) (社) 日本鋳造工学会の春・秋大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。

2) (財) 素形材センターの素形材月間事業への後援。

3) ダイカストマシン工業会主催のセミナーへの後援他。

4) 日本鋳物中子工業会の総会に出席

IX. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

(1) 協会パンフレットを作成し、未加入の企業、組合の加入を促進した。

(2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。

2. 会員及び組織に関する事項

(1) 正会員及び賛助会員（平成 22 年 3 月 31 日現在）

1) 法人正会員 365

2) 団体正会員 39 組合（603 社）

3) 賛助会員 37